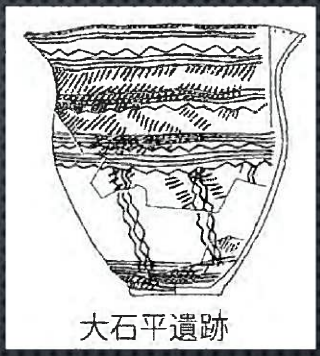
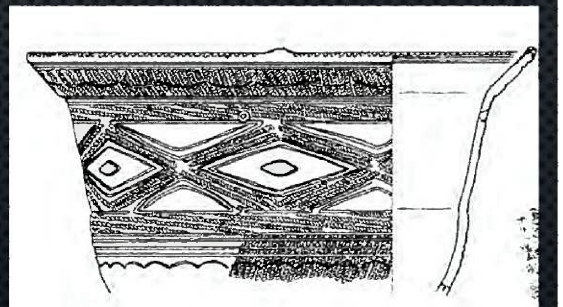
5　弥生土器からみた北陸と北海道南部・東北北部との交流

5_1_北陸-富山・石川県-における天王山式土器系列土器群-
・出土遺跡数　富山県36、石川県40遺跡、
・重菱形文系列　富山県15、石川県13遺跡
5_2_北陸における天王山式土器系列土器群の特徴と系譜
・重菱形文系列が多い

・口頸部間小連弧文・・・・・
・縦位鋸歯文・・・・・・・・・東北北部

・頸部に重菱形文を入れる土器の上胴部に様々な構図が入れられる
・S字状連繋文・・・・・・・・・三陸・上北三八～各地
・上胴部　山形文＋弧線文（波状文）・・北海道南部～
・円台形連結文・・・・東北北部～


大石平遺跡

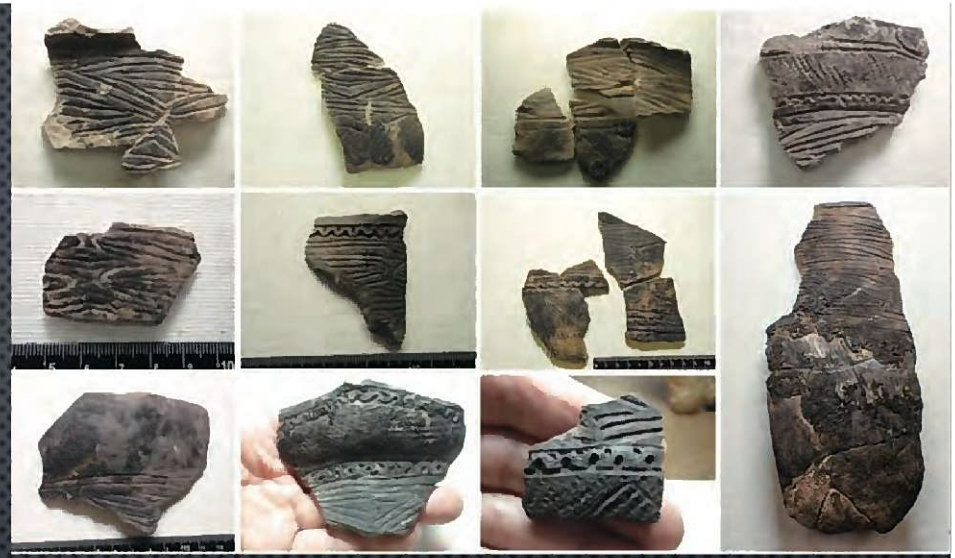

下老子笹川遺跡（富山県高岡市）

⇒重菱形文とのキメラ土器としてあらゆる構図が北陸で見られる
⇒⇒⇒東北北部・北海道南部にみられる特徴が多い
※下老子笹川遺跡　北海道系土器（続縄文式土器　恵山式）の模倣品

⇒天王山遺跡天王山式土器にはみられない特徴
⇒北陸では明確な平行沈線文系土器の系譜は確認することはできない　北陸の中期には無い土器なので当然

富山県

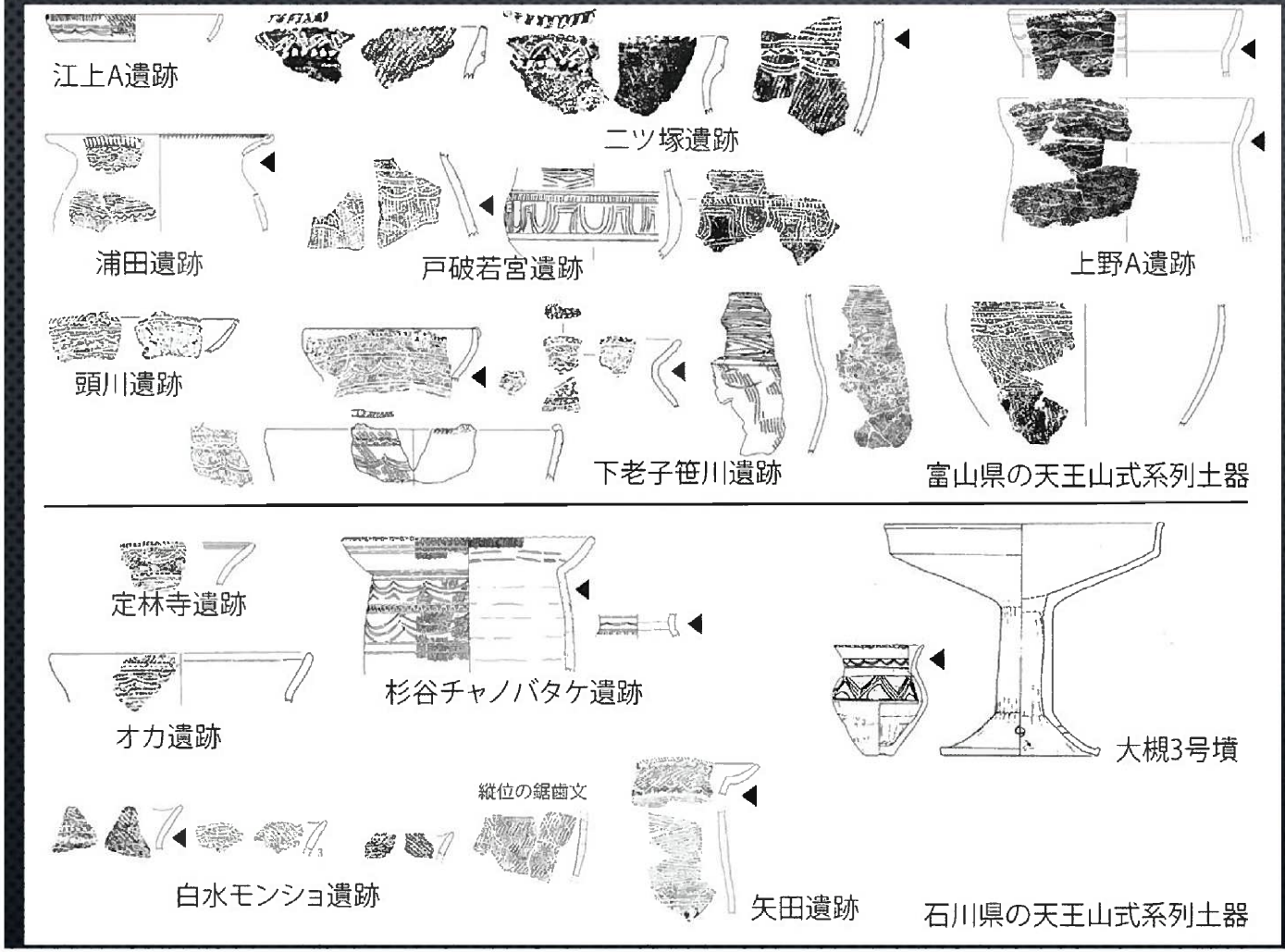
石川県

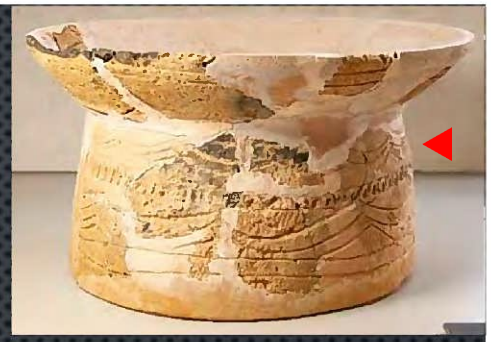


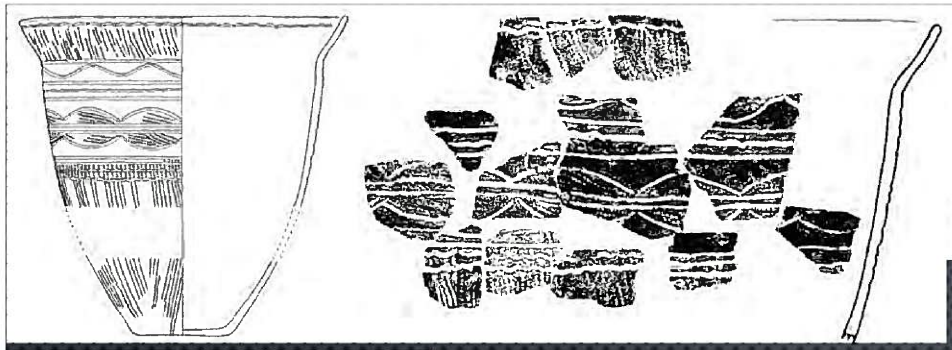
富山県

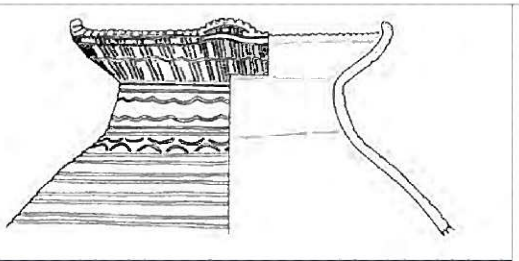
富山県・石川県の天王山式系列土器群

５_３_口頸部間（口縁部頸部間）小連弧文の系譜





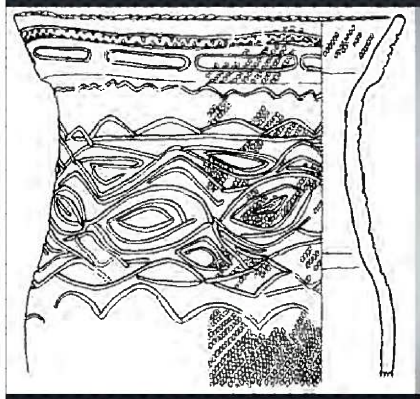




青森市蛍沢遺跡

秋田県三種町館の上遺跡

青森県六ケ所村家ノ前遺跡



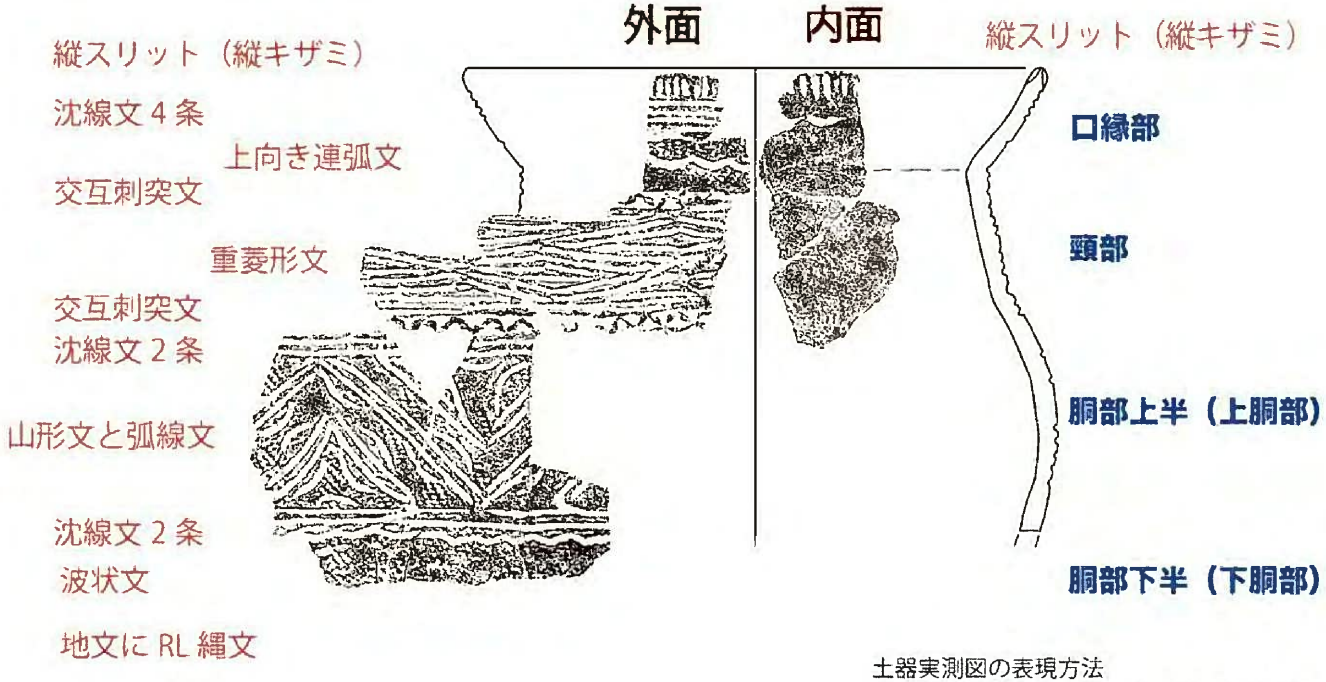
長岡市松ノ脇遺跡

口頸部間を無文としない例は
天王山遺跡天王山式土器成立以前の後期前半にみられる

⇒分布は、東北北部～新潟・北陸などの日本海側

北陸における口頸部間小連弧文の系譜

５_４_上胴部山形文の系譜



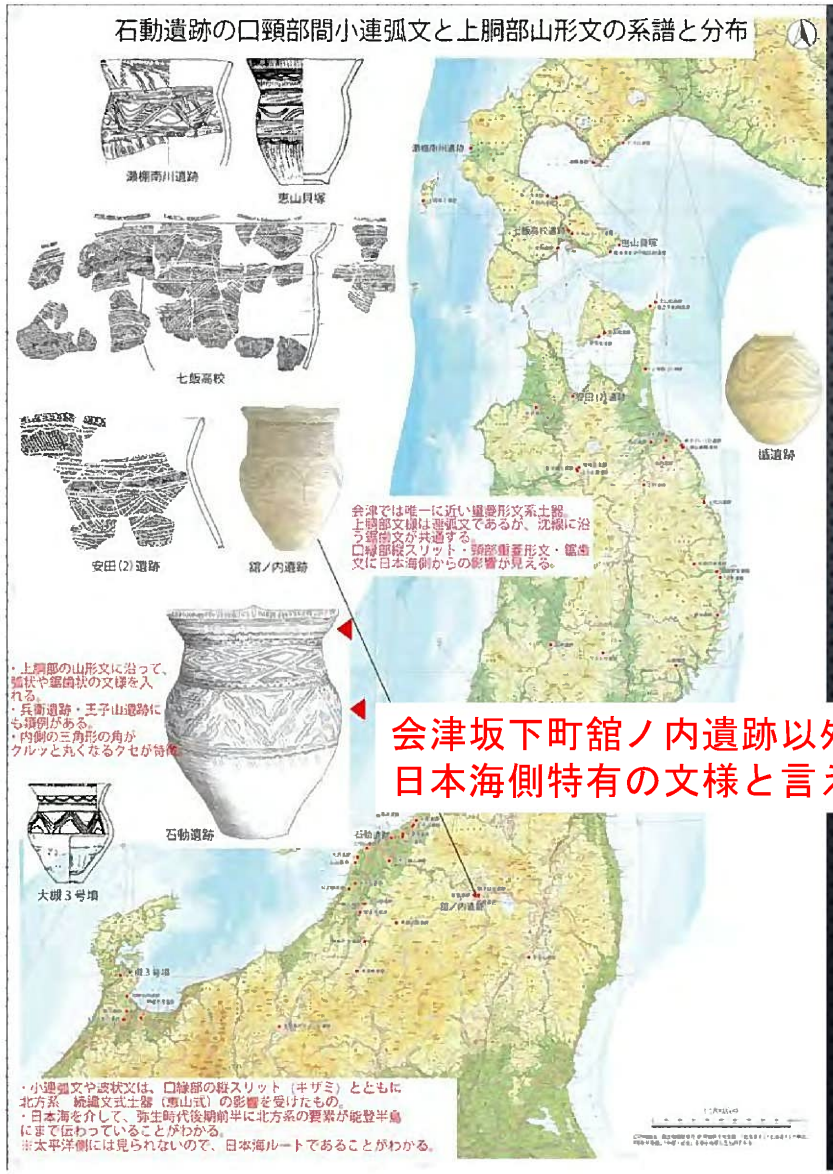
※交互刺突文

ジグザクの文様が天王山式の特徴

土器実測図の表現方法
中心線の左右に線対称に器の形を表現する
左側　外面の文様
右側　内面の文様
右側に土器の断面形（厚さ）を表す

石動遺跡出土のキメラ土器（頸部重菱形文　上胴部山形文）

石動遺跡（新潟市）



大槻3号墳

兵衛遺跡

王子山遺跡

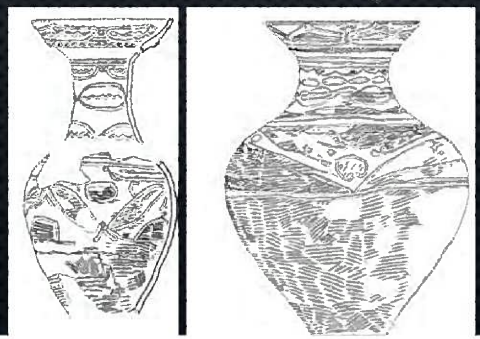
出土　右・東北大橋出土

下老子笹川遺跡

舘ノ内遺跡

楯遺跡

会津坂下町舘ノ内遺跡以外には、日本海沿岸を中心に分布しており
日本海側特有の文様と言える



斜線に沿って入れられた
弧状や鋸歯状文

後期後半

桜町遺跡

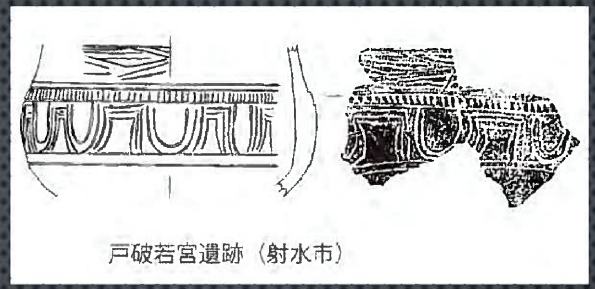
石動遺跡（新潟市）

舘ノ内遺跡（福島県）

大槻３号墳（石川県）

舘ノ内遺跡

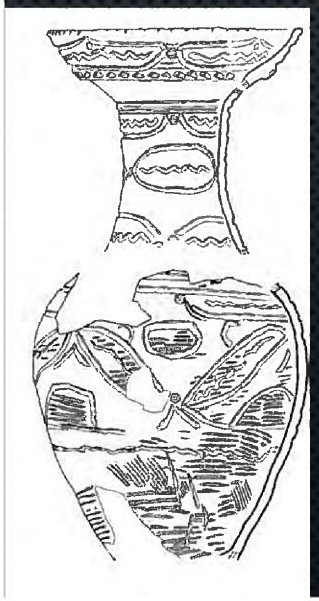
柏崎市西谷遺跡

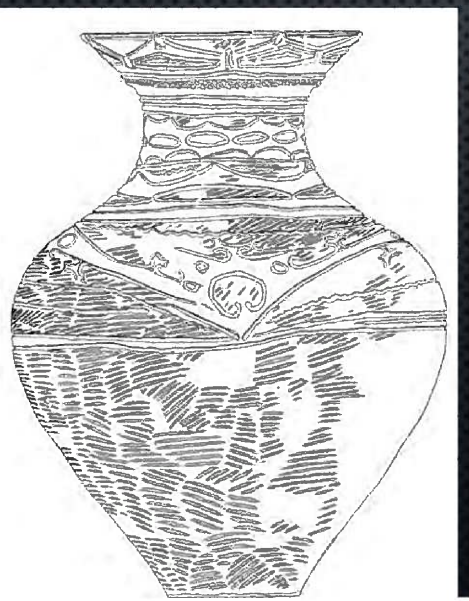


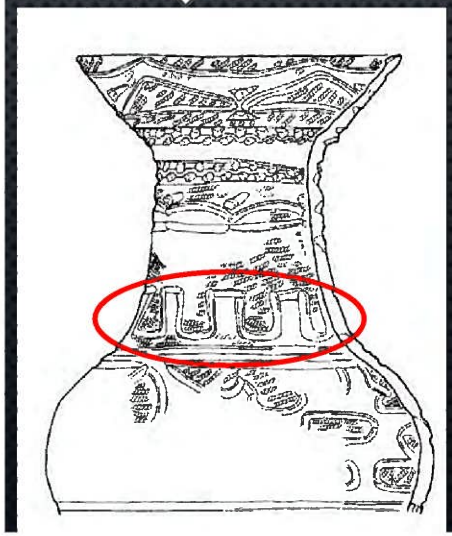
蛇足
　少しだけ後期後半の話

＋

会津では
後期前半の後半段階
天王山遺跡天王山式段階がよくわからない







会津では　後期前半の後半段階～
白河市天王山遺跡とは違う系譜を考える
必要があるのかもしれない

⇒天王山遺跡に見られる文様帯区分が不明確
⇒北陸？からのキメラ土器の影響か？
⇒後期後半になると、土器・墓制など北陸の影響が強く認められるようになる・・・

後期後半？
湯川村桜町遺跡

６　東北日本に広域に分布する文様

6_1_S字状連繋文の系譜

・波状工字文に錨形文の要素が加わって成立した文様・・・石川日出志案

・青森県八戸市周辺～岩手県宮古市・陸前高田市にかけて古相の例が多い

・宮古市田鎖車堂前遺跡からは、中期末葉の平行沈線文系土器・重菱形文系土器など各地域の土器が出土しており、S字状連繋文が各地に広がる前段階にも活発な流通を垣間みれる

・地域と時期によって、鉢形　壺形　甕形と器形に偏りがみられる

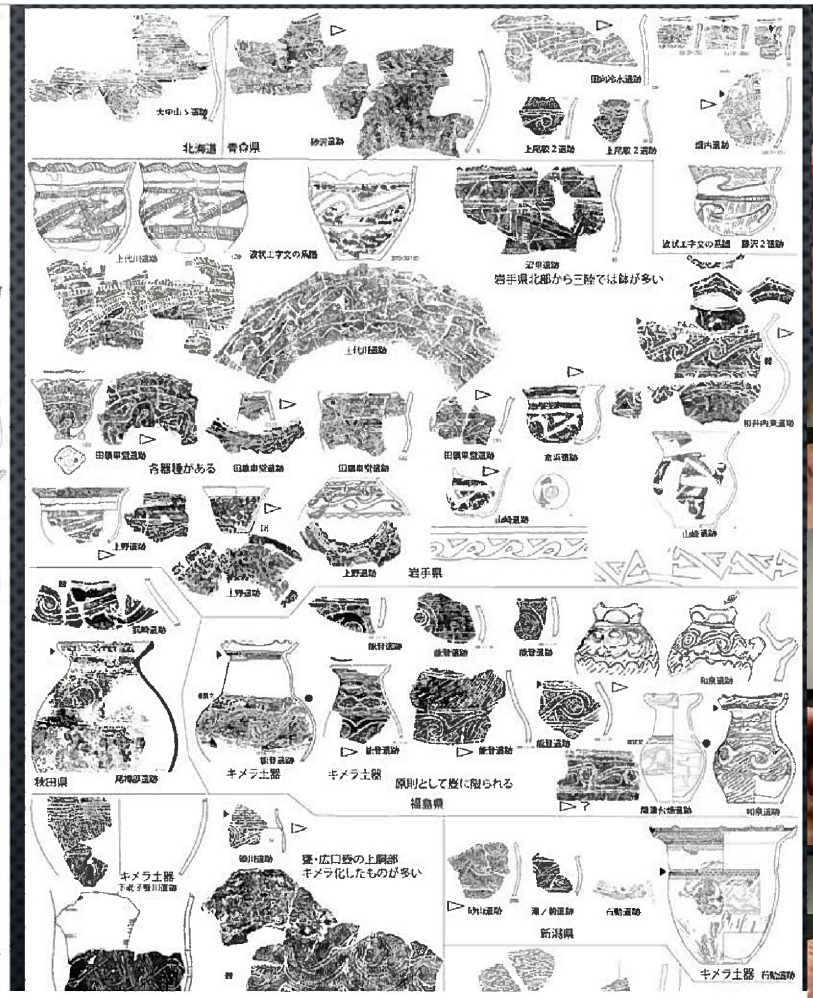
・壺形・甕形土器に入れられる場合には、付随的に入れられた文様のように見受けられる

・S字を挟んで斜め対角線に入る三角形の補助文があるものが古く、新しくなると省略される傾向にある

・S字状連繋文に交互刺突文が入れられる例は少なく、補助文は入らない傾向にある

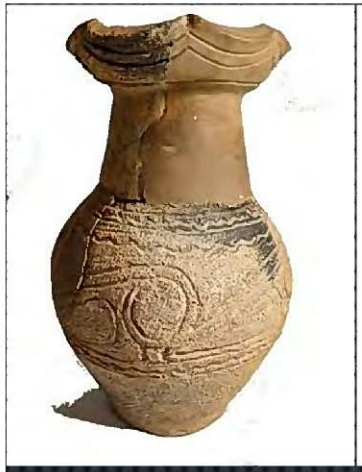
⇒補助文のないものは新しい

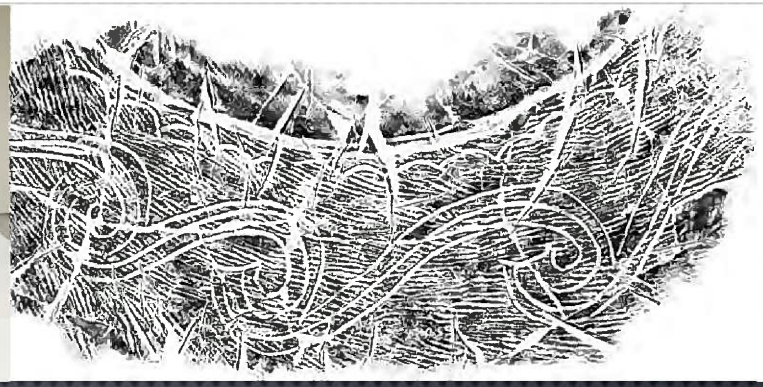
6_2_「円台形連結文」の系譜

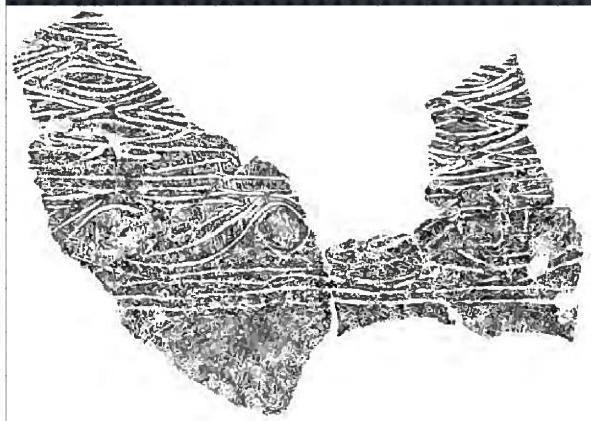


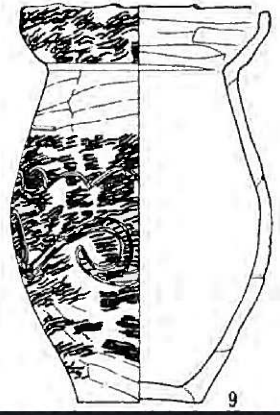
中期後半・終末期からの広域流通を裏付ける遺物
このような社会背景のもと、S字状連繋文も各地に拡散したと考えられる

田鎖車堂前遺跡
岩手県　宮古市



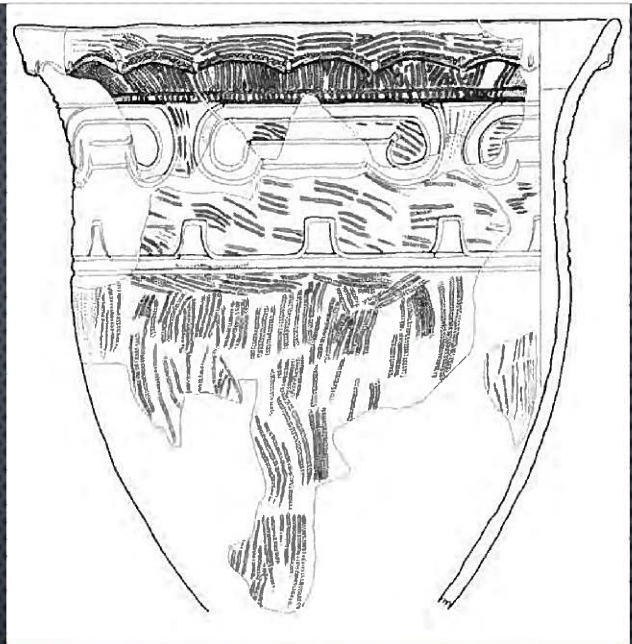






福島県以南の　S字状連繋文は　＋α　の文様なのか？

6_2_　六地山遺跡の円台形連結文の系譜と分布

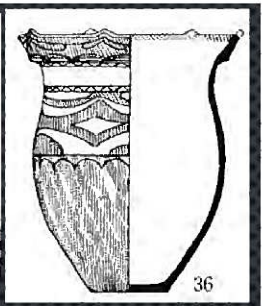


六地山遺跡　甕形土器

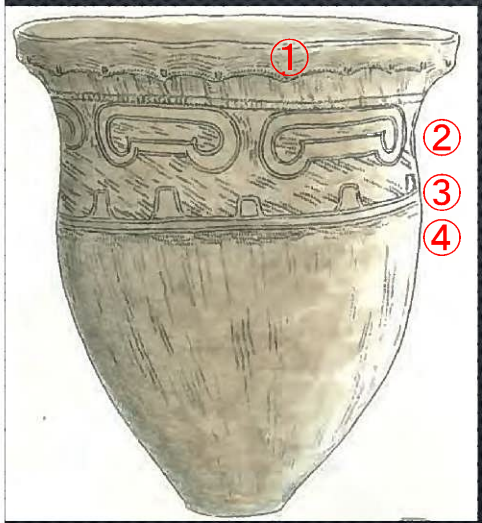
六地山遺跡出土の多系統の土器群

①口縁部交点刺突下向連弧文

RL原体側面押圧による
下向連弧文



天王山遺跡



六地山遺跡

②
円台形連結文と
双頭渦文の変容した
文様

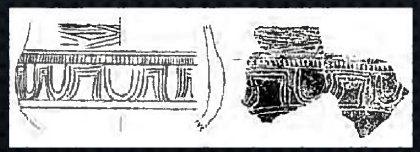
能登遺跡例（左）は大槻3号墳の山形文を
上下に分離させ、その間に変容した
円台形連結文を入れる

本来、一つの文様帯には、一つの構図しか入れない
②③の違う構図を入れることは稀
上胴部にRL横走縄文を入れるために、敢えて③を
頸部文様帯に入れたと考えられる

③連結上向連弧文

④RL横走、縦走縄文

常盤遺跡



戸破若宮遺跡

７　まとめ

・後期前半の後半段階に、天王山遺跡が出現し、そこでは天王山式土器が作られる
・天王山式土器の編年的な位置づけは、天王山遺跡における東関東系土器の共伴事例、古津八幡山遺跡における北陸系土器との共伴事例から言える　一矛盾はない
・天王山遺跡天王山式土器は、頸部の一部を無文にし、連弧文に由来する文様を入れ、磨消縄文が多用されるなど、一定の規範に基づいて作られている
・天王山遺跡で天王山式土器が成立する以前には、中期末の平行沈線文系土器の要素を持った土器が作られるとともに、広域に似かよった文様を持った土器が作られる
・北陸では東北北部に由来する口頸部小連弧文・上胴部大形山形文と頸部重菱形文
・上北三八から三陸に由来するS字状連繋文はさらに広域に分布しており、福島県以南では頸部に別系統の文様を持つ土器の上胴部に入れられている
・六地山遺跡の「円台形連結文」を入れた甕形土器も、前に説明したように、編年的な位置づけは、天王山遺跡天王山式土器以前になる

ご清聴ありがとうございました